

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472800293		
法人名	特定非営利活動法人なごみ		
事業所名	特定非営利活動法人グループホームなごみ		
所在地	玖珠郡玖珠町山田2734		
自己評価作成日	平成21年10月10日	評価結果市町村受理日	平成22年1月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ap.oita-kaigo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4472800293&SCD=370
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成21年10月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様お一人おひとりの個性を大切に、その人らしい日常生活が送れる様に支援させていただきます。
それには接遇、介護技術など、利用者様、ご家族様の満足度向上(CS)に向け、努力いたします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・管理者は、「尊厳を重視した認知症ケア」を念頭に置いた事業所運営に努めている。
・職員は多くの外部研修を受講し、研修終了後は、全職員で研修の共有ができる、工夫された報告書を作成し、職員の質の向上に努めている。
・それぞれの職員が、毎月行われるミーティング時、利用者の健康管理、栄養支援のしたことなど、積極的に発言し、事業所運営や利用者の生活の質の向上に反映されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し常に理念に立ち戻り反省し、ケアに繋げるように指導している。まだまだ今の理念が外せません。	理念は、管理者が事業所開設時に作成している。利用者の支援や家族との関係、地域貢献を具体的に分かり易く表現したものを継続して用いている。職員にも理念を念頭に置いて日々のケアに努めるよう指導している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所が、孤立はしていないが地域の一員になれていない。地元の活動、住民との交流を積極的にしていない。	アコーディオン演奏のボランティアの訪問を受けたり、地域の人から手作りおやつへの差し入れを受けるなどの交流がある。災害時には、自治委員を通して地域の援助が得られる仕組みを作っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職場体験実習生を受け入れて学校からとても喜ばれ、今年も転勤した先生の勧めで中学校から1名来られます。また、10月11日認知症についての講演会を開きました。出前講座を小学校等に行きたいと思いません。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の会議で取り上げられた事案について経過を報告し、一つ一つ積み上げていくようにしている。また、前回からの変化などを報告し意見を頂くようにしている。施設内の様子や接遇等を見ていただけ、職員も良い影響を受けているのではないかと思います。	2ヶ月に1度開催され、幅広い立場の人々が参加している。利用者や事業所の状況報告の他、参加者より出された質問や提案について話し合いがもたれ、事業所運営に活かされている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	密にとつてはいない。役場に呼ばれ課長と話す際に自分の考えをのべた。運営委員会では行政から出席があり施設の状況を説明している。広報紙を配布している。丁寧に対応してくれます。	年2回発行する広報誌を持参している。認知症講演会を企画し、行政にも参加を呼び掛けている。運営推進会議などで役場職員と話す機会には、事業所や利用者への「想い」を伝えている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者の権利擁護や身体拘束について勉強会を実施し、共有認識を図っている。細かく職員と話し合い、気付かないうちに言葉をささげる、気持ちを抑えつけていないか点検している。オープン姿勢を大切にしている。	管理者は、身体拘束・虐待・権利擁護などの認識を強く持ち、見守りや声掛けなどのケアの工夫により、利用者の危険回避に努めている。		

事業者名:特定非営利活動法人グループホームなごみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法の施設内勉強会をミーティング時に行いました。不適切ケアについて決してしないことを確認合っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員に「成年後見制度」や「日常生活支援事業」について説明していない。毎月のミーティングの中に織り込んで勉強していきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用料の値上げをしました。家族会を開きました。来られない方もいらっしゃいましたが一方的にはなっていないと思います。重要事項説明書を改定する必要があります。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営委員会には利用者も出席していただいています。意見・苦情は大切なものと職員と話しています。いただいたものをサービスや運営に生かしたいと思います。	家族会は、年に2回、6～7名の家族と全職員参加のもと、開かれている。家族会では意見がなかった。後日、家族より内容について意見が寄せられ、次回の家族会で取り組むことにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	利用者の受け入れ、職員の交代等職員と話している。ミーティング等で意見を聴くようにしている。不満や苦情については把握しきれない可能性もある。	ミーティングの回数など、職員より意見が出され、具体的に検討され、実践されている。利用者の健康管理面では、新人看護職員の知識や経験による提案が、即、実践されており、職員の意見が事業所運営や利用者の生活の質の向上に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自向上心を持って働けるように努力しています。きちんとした休憩室が必要と大いに感じています。就業規則があります。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員にはOJTの態勢を1か月取りますが経験者には半月出ず。技術、かわりについて丁寧に指導をしています。また、研修には多くの職員が受講できるようにし全体会議で発表している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市町村単位の連絡会に参加している。また、テーマを設けての勉強会がある。出来るだけ職員の出席を促している。近隣の事業所との交流はない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の想い、不安を受け止め安心してもらう。その人の状況、困っていることを把握し、職員が本人に受け入れられるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の今までの苦労など思いを聴くようにしています。家族と本人の気持ちがすれ違い、本人が悪態をつく場面もありました。また、本人の兄弟と子供の意見が食い違う場面もありました。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初めに入所ありきの姿勢でなく家族にとって今どんな手助けが必要なのかをゆっくり聞き次の段階に進みます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であり、やさいの育て方や縫物、風習など教えていただく場面が多く、ともに支え合える関係作りに留意する。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回利用者の近況報告をご家族にお知らせし、状態煮に変化が生じた場合、その都度報告相談をしている。来訪時はご本人とご家族の潤滑油になれるよう心掛けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している美容院に出かけたり、友達が遊びに来られたり、継続的な交流ができるように支援している。	利用者の知人の訪問時、認識が失われている場合には、職員が潤滑油になるよう言葉掛けや接待に気配りをする事で、訪問が継続されるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を職員が共有して利用者同士の生活がうまくなるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者の移動がないのですがもしそのような方がいらっしゃれば働きかけを致します。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で把握に努めています。ご家族を交えながらお話をし検討しています。	見当識障害や会話の困難な利用者にも質問をして「想い」の把握に努めている。日常の様子を観察しながら、関わりの中で汲み取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮つつフェイスシート等を活用して把握に努めています。そうすることによりその人の全体像、文化を知りケアの方法も共有できるとおもいます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタル測定を行い表情や行動等から本人の状態を全員で確認している。また、日中の身体、心理面の把握に努め確認、記録しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族との話し合いはできていないがご本人とは日頃の想いや意見を聴き反映させるようにしている。月1回のモニタリングを行い職員全員が各利用者に同じケアができるように心掛けている。又ご本人やご家族の希望や変化にも注意をし、職員の気づきによってもカンファを行っています。	日々の利用者の言動、ケアの中での担当職員の「気づき」や、利用者の「想い」を活かした介護計画作りに努めている。月1回のモニタリングも丁寧に行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	漫然としたケアでなく計画に添ったケアを心掛けその気づきや工夫を共有するため業務に入る前、申し送りノート、業務日誌、ケア記録を読むように指導しています。また、計画の見直しにも生かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	予定以外の家族の宿泊は1利用者ですがよくありますが仕事のため朝早く歩いて帰られます。突然の訪問もよくあります。通院には費用を頂いています。散髪は外にお連れします。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方や場の力を借りた取り組みは特にしておりません。ご家族に必要な情報はお伝えしております。慰問はよくあります。利用者も楽しみにしております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人やご家族の希望するかかりつけ医となっている。通院など援助している。複数の医療機関と連携し受診時付き添い普段の様子や変化を伝えている。	利用者それぞれの入居前からのかかりつけ医の継続受診が行われている。受診時は職員が付き添い、事業所の福祉車両で送迎支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を非常勤であるが配置している。介護職が利用者の変化に気づき出勤時に確実に伝達し対応している。また、入院時には看護転書を作成し医療を円滑に受けられるようにし、受診後は受診結果を記録し職員全員が把握している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し時には毎日見舞うこともある。家族とも連携を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	意志確認は行っているが進んで終末までケアを行うことは態勢的に難しいと考えています。	管理者、職員共に、重度化についての認識を持っているが、正式な「指針」が作成されていない。	利用者が重度化した際の対応や支援方法について、管理者、職員、関係者で事業所の「指針」の作成を行い、事業所、利用者、家族間の、重度化・終末期の方針の共有に活かされることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職場での研修を不定期に行っているがすべての職員が対応はできないと思う。実践力が身につけていない。ケースを想定しながらの勉強会が必要である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1回利用者とともに避難訓練を行っている。また年1回消防署、の消防団、住民、利用者の家族にも参加していただいている。	地区の自治委員を通して、災害時に地域の援助が得られる仕組みを作っている。また、緊急時の家族連絡網が作成されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者への言葉かけについて管理者を含めて全員に伝えているところですがばらつきがあります。課題です。利用者の情報収集についてや外部との情報連携については責任ある取扱いと管理を徹底している。	管理者は、利用者の尊厳に重きを置いた支援を目標として支援し、職員にも伝えている。職員は、利用者のプライドや羞恥心に配慮した支援を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせた声かけをし食べたい物飲みたい物するしないなど本人が決める場面を設けている。また本人がこたえやすく選びやすい働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが時間を区切ったりしていない。一人ひとりの想いや体調に配慮しながら個別性のある支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人のこだわりと生活の継続性を保つため馴染みの床屋への支援をしている。本人が好みの服を着たりできない方には一緒に本人の好みで整えられるように支援している。お客様が来所時や外出時には自然なお化粧をして外出している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に畑に野菜を採ってきます。野菜の下準備、盛り付け、食器の片付けなどしている。また、一人ひとりの好みを聞いたり、旬の食材を取り入れた献立をしている。	三食とも事業所手作りの献立は、厨房担当職員で話し合い、旬の食材で地産地消の考えを基につくられている。盛り付けや飾りつけにも季節感がある。利用者が自身で食べられるように、介護食器の利用や形態の工夫がされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算はしていないが減塩の指示があれば従っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	拒食気味の方にはその分カロリーを補えるように間食に気を配っている。食事量も個々に合わせたものにしていく。摂取量を確認しざん食量から大まかに把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎食後の口腔ケアを実施。利用者によってはガーゼを使用するなど個々に合わせたケアを行っている。歯磨き後はお茶でうがいをしている。また、週1回義歯洗浄している。訪問診療もいただいています。	事業所独自に工夫された排泄チェック表が作成されており、利用者の排泄パターンの把握にも繋がっている。誘導や支援の際は、自尊心の配慮に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表に一人ひとりの排泄記録を取っている。自尊心に配慮し、様子から敏感に察知し身体機能に応じ手を差し伸べ介助している。本人に合ったパット類を使用している。尿意のない利用者にもトイレでの排泄を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯は決まっているが希望があれば入浴できる。就寝前の入浴は行っていない。入浴拒否の方には言葉かけや対応の工夫をしている。男性介護者を嫌がる方には女性介護者を当てている。	入浴は週に2回としているが、柔軟に対応している。日曜日は、全員の足浴を行い、保清だけでなく利用者とのコミュニケーションを深めるものとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入浴後お昼寝をされる方もいる。なるべく日中の活動を促して夜間よく休めるように配慮している。寝付けない時は本人よりの話を傾聴しています。また、ゆっくり休息がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルがあり職員が内容を把握できるようにしている。服薬時には本人に手渡しきちんと服用でいるか確認している。変更の内容も送り事項に記入し全職員に分かるようにしている。副作用の説明もファイルしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの力を生かしながら掃除、洗濯物畳干し仕事などしていただき、感謝の言葉を伝えるようにしている。遠出の外出は行っていない。片痺の方に草取りをしていただき喜ばれました。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	周辺の散歩・買い物・外食など短時間でも戸外に出かけられるように支援している。また、帰宅希望があれば家族に連絡している。お墓参りや自分の家の様子を見に帰ったりする最近新しいスーパーに仲良しの方と行きました。	交通量が少なく、季節の移り変わりを感じることでできる環境にある。日常的に近辺の散歩を行っている。車椅子の利用者を自立歩行の利用者が押して行くこともある。時には車の通行の多い道路を安全に配慮しながら歩く事も実施している。	

事業者名：特定非営利活動法人グループホームなごみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族より預り事業者が管理しているが外出時には本人に持っていていただき支払は自身でできるように支援している。社会の一員としての自分を感じているかと思えます		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	「電話がかかると心配が先に来る」とクレームがあり電話は特に支援していない。毎年賀状や暑中見舞い、折々に近況を書いたハガキを送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や手作りのものをかざり、意識的に季節感を感じられるように工夫をしている。利用者や家族、運営委員会などに感想や気づきを聴き生活空間の手入れをしている。	共有空間は、明るく開放的につくられている。介助用トイレは、十分なスペースに作られている。事業所全体の換気がされ、不快な臭気などへの配慮が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室から離れた所にソファを置き一人になれる空間や利用者同士がくつろげるスペースがある。不穏の激しい方にはそれとなくその場所にお連れし静かに話をし落ち着かせるのを待ちます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具などリサイクルを活用している。自分で工夫される方もいらっしゃいますが出きない方には話し合い本人の意思に添います。ベッドは介護用です。本人や家族には馴染みのものをおいてもよいこと、効果を説明しています。	居室は、事業所が介護用ベッドを置き、タンスはリサイクル家具を置いている。タンスの上や壁面は利用者や家族の写真や思い出の品を飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	混乱や失敗が続いている方がいらっしゃいます。職員間で本人の不安や混乱に対しケアの方法を話し合い心地よく安心して過ごせるように配慮しています。		